



第26号

令和7年3月1日発行

宮城県富谷高等学校 同窓会報

発行
宮城県富谷高等学校
同窓会
〒981-3341
宮城県富谷市成田
二丁目1番地1
宮城県富谷高等学校内
TEL 022-351-5111
FAX 022-351-5112

30年の重みに ついて考えた年



同窓会会長
宮澤 将之

同窓会会長を務めさせていただいております。宮澤将之です。月並みではございますが、今年度もこの会報をお届けすることができ、大変嬉しく思います。今年度は、我が宮城県富谷高等学校が創立30周年を迎えるにあたり、周年記念事業の立案、及び実行において先方や在校生とその御父兄の方々全ての方にご協力をいただきました。無事、周年記念事業を執り行うことができました。富谷高校の歴史に新たな1ページを刻むことができました。改めて心から感謝を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

さて、周年行事のご挨拶で触れておりましたが、私は今年で30歳になりますので、実は富谷高校の創立と同時に生まれて、ほぼ同じ年月を通過してきた身であります。この30年という年月は、生まれたばかりの赤ちゃんが私くらいの小さいおじさんになる時間に相当するわけですが、富谷高校におきかえるとどうでしょう。

選択）や、個々の進歩希望に応じた学習、ユネスコスクール加盟による国際的な視野の育成等がアイデンティティや魅力となり、その地位を確立してきました。高校の魅力が大きくなるにつれ、インフラの拡充や、移り住む人の増加、衣食住の需要に対する施設の拡充、更には医療体制の整備等、周囲を巻き込み、大きく発展してきました。しかしながら、近年は生徒数が減少傾向にあり、クラス数やコース体制を変更する等、変容が必要なものも事実です。これは、国全体で少子化や超高齢社会、不景気等の問題が身近なところまで影を落としていることに他なりません。

日本は多くの問題に直面していますが、富谷高校はそんな社会を生き抜く糧を育むことができる学校であると思います。自然と調和のとれた環境の元、教育に前向きで熱心な先生が揃っていること、明るい校風の元、勉強だけではなく、他者理解を育む機会があるからです。

社会には様々な思想や考えを持つ人がいて、同じ目標に向かって手を取り合うこともあれば、意見の交換や議論をしなければならぬ場面が沢山あります。在校生だけでなく、将来入学される学生やすでに卒業された先輩方には、是非とも学びの知識だけでなく、高校で培った他者の理解、協調を通じて社会で活躍する存在であってほしいと願ってやみません。今後の富谷高校

の更なる繁栄を願いつつ、同窓会報の挨拶といたします。

三十周年記念
事業へのご支援
ありがとうございました



校長
田淵 龍二

同窓生の皆さまには日頃より本校へのご支援、ご協力をお願いし、誠にありがとうございます。特に、今年度（令和六年度）本校は創立三十一周年を迎え、皆さまのあたたかいご支援のもと、三十周年記念事業をおこないました。おかげさまで、令和六年十一月一日、仙台銀行ホールイズミティ21にて開催した記念講演会をもって事業を終えることができましたこと、重ねて感謝申し上げます。振り返ってみると、私たちは総勢四十名を超える実行委員会を組織して事業内容を検討して参りました。委員長は同窓会会長の宮澤将之さん、副委員長は父母教師会会長の佐藤昇一さん、同窓会副会長の菅原千洋さん、本校の鶴徳雅宏教頭、事務局長は本校の鈴木信隆主幹教諭が務めました。記念事業すべてではありませんが、そのいくつかをご紹介します。

そのいくつかをご紹介します。まず、20周年から30周年にかけて、本校の発展にご尽力いただいた、学校長、父母教師会会長、同窓会会長の皆さまに感謝状を贈らせていただくことにしました。在校生に係することでは、記念ロゴコンテストを開催し、二年生山内星奈さんの作品が最優秀賞に選ばれ、記念ロゴマークに採用されました。全校生徒によるモザイクアート制作にも取り組む、その作品が完成し全貌が明らかになると感嘆の声が上がりました。記念講演会前日の十月三十一日には、新調された校歌の音源のお披露目があり、その日の夕方には記念花火が打ち上げられ、素敵な花火が記念すべき時を美しく彩ってくれました。そして十一月一日の記念講演会では、講師にフォトジャーナリストの安田菜津紀さんをお迎えし、「共に生きるとは何か」という演題で講演していただきました。安田さんは貧困や紛争などにより、命の危険が脅かされる国々取材した経験をもとに、そこに生きる人々の苦悩や悲しみを私たちに訴えかけてきました。質疑応答の場面では、真先に質問したのが同窓会会長の宮澤さんです。「講演をきっかけに紛争や差別に関する情報への接し方が変わった。私たちにできることは何か？」この質問をきっかけに、二人の生徒が続き、「これまでの歴史を見て差別や争いはなくならない。打開策はあるのか？」



「イスラエルとパレスチナの話聞いていて思った。一国家で二民族は共存できるのか？」など、本質的で核心を突く質問をすると、安田さんも真剣に答えてくれました。重要なのは私たちの「ありよう」とのこと。食や文化を通じて交流し理解し合うこと、人権を尊重して区別しないこと、政府や国際組織をしつかり監視しておかしいことには声を上げること…などと答えてくれました。劇的に変わることはないが、少しずつでも変えていけるという言葉に胸に、ユネスコスクールに加盟している本校の生徒たちは、今後、ユネスコ憲章の一節にある「人の心の中に平和のとりでを築く」ために行動してくるのだと思います。本校の記念講演としてふさわしいすばらしい内容でした。

ユネスコ委員会

委員長 三年二組 佐々木 由理

今年度のユネスコ委員会では、**「届けよう、服のチカラ」**プロジェクトへの参加呼びかけとして『OH!パンドス』へ出演し、前年度より大規模に協力の呼びこみを行い、子ども服の回収をしました。また、夏休みには「泉区民ふるさと祭り」でのボランティア活動や富谷高校三十周年の記念講演での会場準備や片付けなどを行い、前年度にも増して活発に多くの活動ができたと感じます。

富谷高校はユネスコ憲章に示されたユネスコの理念や目的を学校活動のあらゆる面に位置づけ、「児童生徒の心の中に平和のとおりでを築くことを目指すユネスコスクールです。その活動として、私たちはユニクロ・GUが主催する、届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加しています。このプロジェクトは着なくなった子ども服を回収して、難民の子どもたちなど世界中で服を本当に必要とする人々に届ける活動です。これまでに全国で三五七二校のべ三八万人の子どもたちが参加し、約五四〇万着の寄付が集まっています。富谷高校ではこのプロジェクトを広めるために、近隣の幼稚園や小学校を訪問し、出前授業なども行ってきました。近年はコロナの影響でできていませんでしたが、その代わり校内での活動を重点的に行いました。

ユネスコ委員会は、来年度も服のチカラプロジェクトや地域ボランティア活動などに積極的に参加したいと思います。来年度も、ユネスコ委員会にご協力お願いします。

吹奏楽部

部長 二年七組 高橋 美汐

私たち吹奏楽部は、三年生七名、二年生十名、一年生七名の計二十四名で活動しています。一年間の主な活動は、五月の定期演奏会、七月の吹奏楽コンクール、秋のマーチング大会、十二月のアンサンブルコンテストなど、さまざまな演奏活動をしています。

定期演奏会は今年度で二十九回を迎えました。二・三年生が中心となり、約半年の準備を経てステージをつくりあげることができ、来場した多くのお客様に楽しんでいただけた。演奏会本番を迎えるまでの道のりはうまくいかないことや大変なことがありましたが、部員同士で助け合い、より良いステージをつくりあげることができました。

吹奏楽コンクールでは、目標としていた金賞には一歩及ばず銀賞という結果に終わりました。今回の結果を踏まえて、来年の吹奏楽コンクールに繋げていって欲しいと思います。

秋のマーチング大会では、マーチングリーダーが中心となり日々練習に取り組みました。様々なトラブルが発生して大変なこともありましたが、何とか部員全員で協力し合って本番を迎えることができました。

来年度に向けて、今年度の反省点を改善してより良い活動ができるよう部員一同、切磋琢磨し合いながら練習に励んでいきたいと思っています。

令和5年度宮城県富谷高等学校同窓会決算報告書

1 収入の部 (単位: 円)

項目	予算額	決算額	比較	摘要
1 会費	1,420,200	1,382,400	△ 37,800	(1期) @900×788名 (2期) @900×788名 転入学返金 14名
2 繰越金	225,072	225,072	0	前年度より繰越
3 雑収入	28	0	△ 28	
合計	1,645,300	1,607,472	△ 37,828	

2 支出の部

項目	予算額	決算額	残額	摘要
1 運営費	115,000	37,412	△ 77,588	
(1) 会議費	15,000	5,964	△ 9,036	役員会会議費
(2) 事務費	70,000	7,370	△ 62,630	会長印(縦)新調
(3) 需用費	10,000	11,670	1,670	コピー用紙代等
(4) 旅費	20,000	12,408	△ 7,592	役員会等旅費
2 事業費	1,485,000	1,554,850	69,850	
(1) 総会費	5,000	672	△ 4,328	総会開催経費
(2) 広報活動費	830,000	961,992	131,992	データ管理費、ホームページ管理費、会報発行経費等
(3) 遠征費補助	150,000	150,000	0	部活動遠征費補助
(4) 記念品費	280,000	219,472	△ 60,528	卒業記念品、新入生校章
(5) 慶弔費	20,000	22,714	2,714	
(6) 積立費	200,000	200,000	0	周年記念事業積立
3 予備費	45,300	0	△ 45,300	創立30周年記念事業準備委員会関係
合計	1,645,300	1,592,262	△ 53,038	

3 残額

総収入額	総支出額	差引残額
1,607,472	1,592,262	15,210

※次年度へ繰越

4 積立金

前年度繰越金	今年度繰入金	預金利息	今年度解約	積立金累計
7,641,239	200,000	92	5,640,770	5,641,239

令和5年度事業報告

開催日	事業名	内容等
R5. 7. 14(金)	第1回役員会	決算案、事業報告案、事業計画案 同窓会総会などに関する審議
8. 11 (金・山の日)	第26回総会	決算案、事業報告案、事業計画案 などに関する審議
R6. 2. 29(木)	第2回役員会 同窓会入会式	役員紹介、同窓会活動 内容の紹介等
3. 1(金)	同窓会報第25号発行	

令和6年度宮城県富谷高等学校同窓会予算書

1 収入の部 (単位: 円)

項目	予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1 会費	1,416,600	1,420,200	△ 3,600	@1,800円×787名
2 繰越金	15,210	225,072	△209,862	前年度より繰越
3 雑収入	0	28	△ 28	
合計	1,431,810	1,645,300	△213,490	

2 支出の部

項目	予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1 運営費	20,000	115,000	△ 95,000	
(1) 会議費	5,000	15,000	△ 10,000	役員会会議費
(2) 事務費	5,000	70,000	△ 65,000	役員会・総会案内はがき等
(3) 需用費	5,000	10,000	△ 5,000	コピー用紙代等
(4) 旅費	5,000	20,000	△ 15,000	役員会旅費
2 事業費	1,410,000	1,485,000	△ 15,000	
(1) 総会費	5,000	5,000	0	総会開催経費
(2) 広報活動費	830,000	830,000	0	データ管理費、ホームページ管理費、 会報発行経費等
(3) 遠征費補助	150,000	150,000	0	部活動遠征費補助
(4) 記念品費	320,000	280,000	40,000	卒業記念品、新入生校章
(5) 慶弔費	5,000	20,000	0	
(6) 積立費	100,000	200,000	△100,000	周年記念事業積立
3 予備費	1,810	45,300	△43,490	
合計	1,431,810	1,645,300	△213,490	

監査報告

通帳及び関係書類を監査したところ、いずれも適正に処理されている事を報告いたします。

令和6年5月28日

監事 須岸 ほか
監事 湊谷 星七海

令和6年度事業計画

開催日	事業名	内容等
R6. 7. 5(金)	第1回役員会	決算案、事業報告案、事業計画案 同窓会総会などに関する審議
8. 3(土)	第27回総会	決算案、事業報告案、事業計画案 などに関する審議
11. 1(金)	30周年記念講演会	
R7. 2. 28(金)	第2回役員会 同窓会入会式	役員紹介、同窓会活動 内容の紹介等
3. 1(土)	同窓会報第26号発行	

